



全国医療施設 開業ランキング レポート ver2

＜調査方法＞

行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出



Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の医療施設に関する調査結果を発表いたします。

※保健適応の病院・診療所のみで集計。

全国病院&診療所開業ランキング 2025年4月～6月

病院&診療所開業全国TOP5/2025年4月～6月	…P4
全国病院&診療所開業ランキング	…P5
社会的ニーズが後押しする医療開業の拡大	…P6～7

全国病院&診療所 2025年上半期の開業推移

全国病院&診療所 2025年上半期開業数推移	…P9
年度初めに広がる新規開業、医療現場の時期的偏り	…P10
都市圏で拡大する新規開業の波	…P11～12

全国診療所 診療科目別開業ランキング 2025年4月～6月

全国診療所 診療科目別開業ランキング	…P14
現代医療を支える視点と基盤	…P15～16
全国内科診療所 開業ランキング	…P17
高齢化社会と地域医療を支える内科の力	…P18
人口分散 × 医療インフラ不足	…P19

全国医療開業レポート ver2 まとめ

医療業界の“これから”― 社会ニーズに応えるために	…P21
数字を超えた価値、開業という挑戦	…P22

A stethoscope with a black tube and a silver chest piece is coiled on a light blue surface. Next to it is a small, clear plastic pill bottle with a white cap. The cap has a diagram showing how to open it, with arrows and the text "TO OPEN", "HOLD TAB", and "TURN". The bottle is filled with yellow pills.

全国病院&診療所開業ランキング 2025年4月～6月

病院&診療所開業全国TOP5/2025年4月～6月



全国の医療業界では、診療報酬改定や地域包括ケアの推進といった政策的な動きを背景に、医療提供体制の再編が進んでいます。

本レポートでは、開業件数の変化や診療科の選択傾向をデータから読み解き、都市と地方で異なる開業戦略の実態に迫ります。これから開業を検討される方や、医療市場の動向を把握したい方にとって、実務に直結するヒントを提供する内容となっております。

2025年4月～6月の全国病院&診療所開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位
東京都

1位 東京都(350件)

オフィス街・繁華街での「働く世代」向け診療所や、都心居住者向けの専門クリニック(美容・メンタル・生活習慣病など)が特に増加傾向にあります。



2位
大阪府

2位 大阪府(144件)

梅田再開発や万博関連での人口流動が活発になり、都市部での医療需要が大きい。また、堺市など高齢者比率の高いエリアで、内科や整形外科を中心とした開業も増加しています。



3位
神奈川県

3位 神奈川県(118件)

「駅近のクリニック需要」が旺盛で、小児科・耳鼻科・婦人科といったファミリー層向けと、高齢者向け内科・整形外科が同時に伸びています。



4位
福岡県

4位 福岡県(88件)

福岡市は九州全域からの患者流入があり、「広域医療拠点」としての役割が強く、若年層・子育て世代向けクリニックの需要も拡大している。



5位
愛知県

5位 愛知県(85件)

大企業が多く、従業員や家族を対象とした医療需要が大きい。名古屋市内での開業に加え、日進・豊田・岡崎といった郊外ベッドタウンでも需要が増加している。

全国病院&診療所開業ランキング

2025年4月～6月の全国の病院&診療所開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2025年4月～6月 全国開業件数 1,642件

病院&診療所 / 2025年4月～6月					
	都道府県	開業数			
	ALL	1,642	24	栃木県	15
1	東京都	350	25	群馬県	15
2	大阪府	144	26	愛媛県	14
3	神奈川県	118	27	宮崎県	14
4	福岡県	88	28	山口県	13
5	愛知県	85	29	香川県	13
6	兵庫県	84	30	大分県	13
7	埼玉県	76	31	奈良県	13
8	千葉県	75	32	滋賀県	13
9	北海道	59	33	鹿児島県	12
10	京都府	44	34	石川県	11
11	静岡県	35	35	熊本県	10
12	広島県	29	36	佐賀県	10
13	宮城県	27	37	青森県	7
14	岐阜県	26	38	長崎県	7
15	沖縄県	25	39	山梨県	7
16	茨城県	23	40	高知県	6
17	岩手県	21	41	和歌山県	6
18	岡山県	20	42	秋田県	5
19	三重県	18	43	島根県	5
20	富山県	18	44	徳島県	5
21	新潟県	18	45	福井県	5
22	長野県	18	46	山形県	3
23	福島県	16	47	鳥取県	3

社会的ニーズが後押しする医療開業の拡大



2025年4月～6月に全国で開業した病院・診療所の数は1,642件にのぼりました。これは、前期(2025年1月～3月)の863件と比べ、779件と大幅に増加していることがわかりました。その背景には、社会全体の変化や医療を取り巻く環境の影響が大きく関わっていると考えられます。

開業数増加の主な要因

■高齢化の加速と地域医療ニーズの拡大

日本全体で後期高齢者人口が急増するなか、慢性疾患や生活習慣病に対応できる「かかりつけ診療所」の存在は地域社会にとって不可欠となっています。とりわけ郊外や地方都市圏では、在宅医療や訪問診療を組み合わせた小規模クリニックの需要が拡大しており、これが開業数の増加を大きく押し上げています。

■予防医療・専門クリニックの需要拡大

健康志向の高まりや、コロナ禍を経た生活習慣の変化により、予防医療や検診に特化したクリニックのニーズが高まっています。また、メンタルヘルスや美容医療といった専門分野でも受診者が増加しており、「気軽に相談できる」「身近で受けられる」といった利便性を重視した開業が、都市部を中心に加速しています。

■社会制度・政策的な後押し

各自治体が実施する開業支援制度や補助金施策が、開業数増加を後押ししています。医療モールや再開発エリアへの誘致も活発に行われ、初期投資のハードルが下がったことで新規参入が容易になっています。また、金利上昇を見据えた「駆け込み開業」も一部で見られ、短期間での開業件数増加につながっています。

【制度:例】

- ・医療施設整備補助
- ・医師確保奨学金制度
- ・診療科誘致補助
- ・無医地区・過疎地域での開業支援



社会的ニーズが後押しする医療開業の拡大

■医師のキャリア選択の多様化

勤務医を中心とした働き方改革の流れを受け、長時間労働の是正やワークライフバランスを求める医師が増えています。
その結果、勤務医から独立開業医へと転身するケースが増加。従来の医局制度に縛られないキャリアの選択肢が広がったことで、特に若手・中堅層を中心に開業が活発化しています。



医局制度とは？

大学医学部の「医局(講座)」を中心に展開される、日本特有の人事システムです。
医師は大学を卒業すると、まず自らの出身大学の医局に所属し、そこを拠点にキャリアを積み始めます。医局は人事権を握っており、大学病院をはじめ、市中病院や地方の医療機関へと医師を派遣・配置する役割を担っています。
そのため、医師の勤務先やキャリア形成は、医局の判断によって大きく左右される仕組みになっています。

	従来の医局制度	現在のキャリア環境
人事権	大学病院の医局が掌握	医師本人が勤務先を自由に選択
キャリアパス	大学院→医局入局→大学病院勤務→ 関連病院派遣→教授選抜が標準的	転職・開業・フリーランスなど多様化
地域医療 への影響	医局派遣で地方病院の人材を確保	自治体が奨学金や補助で医師を確保

■地域人口動態の変化

東京・大阪・福岡といった大都市では、依然として流入人口の増加が続いており、単身世帯や共働き世帯を中心とした都市型の医療需要が拡大しています。
一方で、愛知や北海道などの地方中核都市においても、転入人口の回復や自治体による移住促進策が功を奏し、人口構造に変化が見られます。
こうした都市部と地方双方での人口動態の変化は、日常的に利用できるクリニックや専門診療所の新設を後押しし、新たな医療インフラ整備の必要性を高めています。

全国病院&診療所 2025年上半期の開業推移



全国病院&診療所 2025年上半期開業数推移

次に、2025年上半期(1月～6月)の全国の病院&診療所の開業数を月別に比較し分析してみました。
結果は次の通りです。

病院&診療所 / 2025年4月～6月								
	都道府県	合計	2025-01	2025-02	2025-03	2025-04	2025-05	2025-06
		2,505	261	249	353	673	614	355
1	東京都	540	58	48	84	145	122	83
2	大阪府	263	26	17	76	57	63	24
3	神奈川県	186	19	19	30	52	37	29
4	千葉県	141	18	22	26	37	19	19
5	埼玉県	128	15	15	22	26	28	22
6	福岡県	121	12	12	9	35	32	21
7	愛知県	119	13	11	10	36	31	18
8	兵庫県	116	14	7	11	36	30	18
9	北海道	75	6	6	4	28	14	17
10	京都府	69	4	15	6	21	17	6
11	静岡県	41	2	3	1	12	18	5
12	広島県	41	3	2	7	16	7	6
13	宮城県	39	3	4	5	9	15	3
14	沖縄県	35	3	4	3	6	12	7
15	茨城県	35	3	1	8	11	7	5
16	三重県	33	5	3	7	5	9	4
17	岐阜県	31	2	1	2	12	13	1
18	岩手県	30	3	1	5	8	10	3
19	岡山県	27	4	1	2	6	7	7
20	福島県	24	5	1	2	7	6	3
21	鹿児島県	24	4	6	2	4	4	4
22	群馬県	24	2	5	2	4	10	1
23	滋賀県	23	4	3	3	4	7	2
24	富山県	22	1	1	2	9	4	5
25	栃木県	22	3	4	0	2	9	4
26	長野県	22	1	3	0	9	7	2
27	新潟県	22	0	4	0	9	8	1
28	宮崎県	20	3	3	0	2	9	3
29	奈良県	19	2	1	3	4	5	4
30	愛媛県	19	3	1	1	10	4	0
31	石川県	18	1	4	2	3	5	3
32	香川県	18	3	2	0	7	3	3
33	長崎県	16	1	4	4	4	3	0
34	大分県	16	0	2	1	4	3	6
35	熊本県	16	4	0	2	5	3	2
36	山口県	15	0	1	1	5	7	1
37	佐賀県	13	2	1	0	2	5	3
38	青森県	10	0	2	1	3	1	3
39	山梨県	10	1	2	0	2	4	1
40	高知県	10	2	1	1	3	2	1
41	和歌山県	9	1	1	1	2	3	1
42	島根県	9	1	2	1	2	3	0
43	秋田県	9	1	3	0	2	1	2
44	福井県	7	0	0	2	1	3	1
45	徳島県	7	2	0	0	2	2	1
46	山形県	6	1	0	2	3	0	0
47	鳥取県	5	0	0	2	1	2	0

上半期の新規開業は、春先の4月・5月にピークを迎えていることが分かりました。

年度初めに広がる新規開業、医療現場の時期的偏り

なぜ春先に多くの医師が開業を選んだのか——

その理由を紐解くと、医療業界特有のサイクルや社会の動きが見えてきました。

なぜ開業は春に集中するのか？

1 医師の異動・人事サイクルとの関係

医師の世界では、大学病院や大規模病院の人事異動が毎年4月に行われます。

医局を離れて独立を考える医師は、このタイミングで勤務先を退職し、開業準備を進めるケースが多く見られます。たとえば、大学病院の人事異動に合わせて地元に戻り、地域密着型の内科クリニックを開業するといった例が典型です。

そのため、新規開業は年度初めの4月～5月に集中する傾向が顕著になります。

2 融資・補助金制度の活用タイミング

新規開業には数千万円規模の設備投資が必要で、政策金融公庫や銀行の融資を利用するのが一般的です。これらの融資枠は年度初めに新しく設定されることが多く、申請が集中するのも4月です。

また、自治体の補助金や支援制度も年度単位で運用されており、例えば「診療所の建物改修費を一部補助」「無医地区での開業に数百万円の助成」といった施策が4月に動き始めます。

その結果、制度利用を意識した開業が4～5月に増加すると考えられます。

3 患者獲得のシーズン戦略

4月は転勤や進学に伴う引っ越しが多く、新しい地域で生活を始める住民が急増します。

例えば、ファミリー層が多いベッドタウンでは、この時期に小児科や内科を開業することで「新しいかかりつけ医」として選ばれやすくなります。

さらに、学校健診や企業健診が行われる時期とも重なるため、「健診後の二次受診」や「発熱・生活習慣病チェック」などの需要を早期に取り込めるのも大きな利点です。

4 気候・運営上の理由

夏場の開業は、猛暑による患者数の変動や、お盆休暇に伴う通院減少のリスクがあり、スタートダッシュに不利とされます。加えて、開業直後はスタッフの教育・定着が重要ですが、夏の長期休暇を挟むと人材管理が難しくなるケースもあります。

逆に春は気候も安定しており、運営を軌道に乗せやすい時期です。例えば、4月開業のクリニックは3か月ほどで夏前に患者基盤を整え、安定運営に入りやすいという実利的な理由があります。

都市圏で拡大する新規開業の波

2025年4～6月期は、5都府県で前期比50件以上の大幅な開業増加が確認できました。これらの地域は大都市圏としての成長力と多様な人口構造を有しており、社会的背景と地域特性が複合的に作用した結果と考えられます。

開業数が急増した5つの都市圏、なにが増えた？

病院&診療所 開業数上昇TOP5				
	都道府県	2025年1月～3月	2025年4月～6月	増加件数
1	東京都	190	350	+160
2	福岡県	33	88	+55
3	兵庫県	32	84	+52
4	愛知県	34	85	+51
5	神奈川県	68	118	+50

5都府県の増加を後押ししたのは、以下のような要因が考えられるのではないのでしょうか。

- ① 大都市圏としての人口集中や医療ニーズの多様化
- ② 再開発や住宅地拡大による新規需要
- ③ 高齢化・子育て世代双方の医療需要拡大



東京都（内科:116件）

- ・人口集中と多様な医療ニーズ
 - ↳ 単身世帯・外国人居住者・高齢者と幅広い層が暮らしており、一次診療から美容医療まで多様な開業ニーズが存在している。
- ・再開発エリアでの開業
 - ↳ 品川・渋谷・東京駅周辺など再開発が進み、医療モールやクリニックフロアの新設が相次いだ。
- ・インバウンド回復
 - ↳ 訪日観光客向けのクリニック需要も再浮上している。



都市圏で拡大する新規開業の波



福岡県（歯科診療所:27件）

- ・人口増加都市としての特性
 - └ 福岡市は全国有数の人口増加都市であり、若年層から子育て世代までの医療需要が拡大。
- ・九州の中核都市
 - └ 九州全域から患者が集まり、都市圏全体で医療拠点が増加している。
- ・行政の開業支援
 - └ 福岡市はスタートアップ支援と併せて医療・介護分野の新規事業支援も強化している。



兵庫県（内科:30件）

- ・阪神間の人口密集エリア
 - └ 神戸市・西宮市・尼崎市など、大阪都市圏と連動する住宅都市でクリニック需要が高くなっている。
- ・高齢化の進行
 - └ 兵庫県は高齢者比率が高く、生活習慣病や整形外科ニーズが増大している。
- ・医療モールの拡大
 - └ 再開発地域で複数診療科を集約する「医療モール型開業」が活発化している。



愛知県（内科:31件）

- ・名古屋を中心とした経済圏の強さ
 - └ 大企業や大学病院の集積があり、地域医療の需要が大きい。
- ・都市＋郊外の両輪
 - └ 名古屋市内に加え、豊田・岡崎・日進などの郊外住宅地でも開業が増加している。
- ・人口の安定
 - └ 転入超過は少ないが、全国4位の人口規模を持ち、安定した患者基盤がある。



神奈川県（内科:43件）

- ・ベッドタウンとしての需要
 - └ 横浜・川崎を中心に東京都心へ通勤する住民が多く、駅前クリニックの需要が旺盛。
- ・診療科の多様化
 - └ 小児科・耳鼻科・婦人科などファミリー層向けと、生活習慣病対応の内科が同時に増加している。
- ・人口規模の大きさ
 - └ 全国2位の人口を抱え、エリア全体で安定した開業余地がある。

全国診療所 診療科目別開業ランキング
2025年4月～6月

全国診療所 診療科目別開業ランキング

次に2025年4月から6月に開業した診療所を診療科目別に見てみました。
その結果、次のような結果となりました。

診療所 / 2025年4月～6月		
	診療科目	開業数
	ALL	1,614
1	内科	533
2	歯科診療所	405
3	形成・整形・美容外科	119
4	小児科	111
5	心療内科・精神科	98
6	皮膚科	88
7	眼科	66
8	産科・婦人科・助産	54
9	耳鼻いんこう科	42
10	泌尿器科	31
11	外科	29
12	一般診療所	14
13	脳神経内科・外科	12
14	麻酔科	7
15	人工透析科	4
16	リハビリ	1

ランキングでは、内科(1位・533件)と歯科診療所(2位・405件) が突出しており、高齢化に伴う生活習慣病対応や、日常的な歯科診療の需要といった「生活基盤に直結する医療」が安定して選ばれていることが分かります。

そのほか、美容や心の健康、子どもや高齢者など幅広い世代に対応する診療科も上位に入り、現代の多様化した医療ニーズが反映された結果となりました。

現代医療を支える視点と基盤

現代医療の4つのキーワード

「治す」「支える」「守る」「整える」

診療科目別に分析すると、「現代の医療ニーズ」は、単に病気を治療することにとどまらず、社会や生活環境の変化に対応した、より多層的・多面的な医療へ期待していることが読み取れます。

- ・急速に進む高齢化による慢性疾患管理や在宅医療の拡充
- ・働き方やライフスタイルの多様化に伴うメンタルヘルス
- ・美容医療への関心の高まり
- ・医療費抑制を背景とした予防医療の重要性

医療に求められる役割はかつてないほど幅広くなっています。

また、共働き世帯や単身世帯の増加により、利便性やアクセスの良さといった「生活に寄り添う医療」の価値も高まっています。

こうした社会的背景を踏まえると、現代の医療は「治す」から「支える」「守る」「整える」といった複数の機能を同時に担う存在へとシフトしていると言えるでしょう。

現代医療の5つの柱

■ 1, 高齢化社会への対応

日本は世界でも突出したスピードで高齢化が進行しており、特に75歳以上の「後期高齢者」の人口が急増しています。

※最新の統計結果(2025年4月時点)**では、75歳以上人口は**2,096万人**、前年と比べて**約63万8千人(+3.14%)**の増加となっています。

出典:総務省統計局

この社会背景のもと、生活習慣病や慢性疾患の長期管理、介護と連動した医療、関節疾患や骨粗しょう症に対応する整形外科の需要が増加しています。

さらに、自宅や施設で療養を希望する高齢者が増えたことで、在宅医療や訪問診療を担うクリニックの新設も活発化しています。

医療は「病院で治す」から「地域で支える」方向へと変化しているのです。

現代医療を支える視点と基盤

■ 2, 予防医療・健康志向の高まり

社会保障費の増大が課題となる中、「病気になる前に防ぐ」という発想が国の政策でも強調されるようになりました。

また、国民の間でも「健康寿命を延ばしたい」という意識が高まっています。

これにより、人間ドックや定期健診、ワクチン接種、さらに食事・運動・睡眠など生活習慣改善をサポートする医療の需要が拡大しました。病気を未然に防ぐ医療は、医療費抑制と国民のQOL(生活の質)の両立に直結するため、開業分野としても注目が高まっています。

■ 3, 精神・メンタルヘルスへの関心拡大

働き方改革やリモートワークの普及、さらにはコロナ禍後の孤立や不安感を背景に、心の不調を抱える人が増えています。うつ病、不安障害、発達障害などが社会問題化し、心療内科・精神科の開業ニーズは急速に拡大しています。

また、オンライン診療やカウンセリングの導入により、従来よりもアクセスしやすくなったことで、受診へのハードルが下がりました。

社会全体で「心のケアは特別なことではなく、日常的に必要なこと」と認識されつつあるのが大きな変化です。

■ 4, 美容・QOL(生活の質)向上志向

SNSの普及やメディアの影響により、外見や健康への意識は世代を問わず高まっています。

とくに若年層は自己投資の一環として美容医療を受け、中高年層では「アンチエイジング」「若さの維持」への関心が強まっています。

これにより、美容外科・美容皮膚科・審美歯科といった診療科が拡大し、開業医にとっても大きな市場となっています。自由診療中心で収益性が高く、診療報酬改定の影響を受けにくい点も魅力で、開業数増加の一因になっています。

■ 5, ライフスタイル変化に対応する利便性

共働き世帯や単身世帯の増加により、従来の「平日昼間中心」の医療提供では不十分になってきました。限られた時間で通いやすいことが重視され、駅前や商業施設内のクリニック、夜間・休日診療などの需要が高まっています。

さらにICTの進展により、オンライン診療や予約システムの導入が進み、患者の利便性は格段に向上しました。

これにより、生活動線に溶け込むような医療が現代の標準となりつつあります。

全国内科診療所 開業ランキング

次に最も開業数が多かった内科に注目し、2025年4月から6月に開業した内科診療所を都道府県別に見てみました。
その結果、次のような結果となりました。

内科 / 2025年4月～6月					
都道府県		開業数			
	ALL	533	24	滋賀県	6
1	東京都	116	25	長野県	5
2	大阪府	50	26	鹿児島県	5
3	神奈川県	43	27	岩手県	5
4	愛知県	31	28	愛媛県	5
5	兵庫県	30	29	和歌山県	4
6	千葉県	28	30	石川県	4
7	福岡県	21	31	山口県	3
8	埼玉県	17	32	群馬県	3
9	北海道	16	33	徳島県	2
10	京都府	15	34	島根県	2
11	静岡県	12	35	大分県	2
12	岐阜県	12	36	新潟県	2
13	宮城県	10	37	山梨県	2
14	沖縄県	9	38	佐賀県	2
15	茨城県	9	39	高知県	2
16	広島県	8	40	宮崎県	2
17	岡山県	8	41	福井県	1
18	三重県	7	42	長崎県	1
19	香川県	7	43	青森県	1
20	福島県	6	44	熊本県	1
21	富山県	6	45	鳥取県	0
22	奈良県	6	46	秋田県	0
23	栃木県	6	47	山形県	0

2025年4月～6月に開業した内科診療所は全国で533件。
地域によって開業数に差は見られるものの、内科は全国的に安定した開業が続いており、誰にとっても身近で必要とされる医療としての役割が改めて浮き彫りになっていることがうかがえます。

高齢化社会と地域医療を支える内科の力

■ 社会的背景（人口構造 × 健康課題）

日本は、総人口の約3割が65歳以上という「超高齢社会」を迎えています。高齢化に伴い、糖尿病や高血圧、心疾患といった生活習慣病や慢性疾患の長期的な管理が不可欠となっています。

しかし、内科が担う役割は高齢者にとどまりません。働き世代は過労やストレスに起因する体調不良や生活習慣病、子ども世代では感染症や予防接種といったニーズがあり、全年齢層に対応できる診療科目としての強みがあります。

風邪やインフルエンザといった身近な疾患から、生活習慣病や慢性疾患の管理、さらには予防医療やワクチン接種まで、国民の健康を幅広く支える存在が内科です。

そのため「地域や年代を問わず安定して必要とされる医療＝生活基盤を守る診療科」として、全国的に高い開業ニーズを維持しているのです。

■ 医療提供体制（かかりつけ医としての役割）

内科は、地域住民にとって最も身近な「かかりつけ医」として機能しており、健康上の不安をまず相談できる「ゲートキーパー」の役割を担っています。症状が軽度であっても気軽に受診でき、必要に応じて専門医や高度医療機関へ紹介することで、地域医療のハブ的存在となっているのです。

さらに、近年は厚生労働省が「かかりつけ医機能の強化」を推進しており、在宅医療やオンライン診療の導入、地域包括ケアとの連携など、内科を中心にした地域医療ネットワークの整備が進んでいます。これにより、患者にとっては“生涯を通じて相談できる医師”を持つことが可能になり、医療全体の効率化にもつながっています。

また、内科は診療科目の中でも設備投資の負担が比較的少なく、検査機器や治療機材が限定的で済むため、他の診療科に比べて開業しやすい傾向があります。その結果、都市部から地方まで全国的に安定的な開業が進み、医療供給体制が維持されやすいのも特徴です。

かかりつけ医機能の強化への取り組み

- ・かかりつけ医の役割を明確にする
- ・診療報酬での支援
- ・ICT（電子カルテやオンライン診療）/地域との連携
- ・在宅医療や夜間/休日対応の推進
- ・住民への周知活動



人口分散 × 医療インフラ不足

都市部と地方では、医療のあり方に大きな違いがあります。

なぜ地方では内科クリニックの割合が高いのか——

その背景には、人口が広域に散らばっていること、そして総合病院や専門クリニックが限られているという、地方特有の事情がありました。

実際、和歌山・香川・岐阜といった地方県では、内科が全開業件数のうち約50%を占めており、この傾向を裏付けていました。



他診療科との差別化が薄い

都市部では人口規模が大きく、患者のニーズも多様であるため、美容系・小児科・心療内科・皮膚科など、専門的かつ差別化された診療科が数多く開業しています。

そのため、患者も「自分の症状に合う専門科」を選びやすい環境が整っています。

一方、地方では人口が少なく、患者数が分散しにくいため、高度に専門的な診療科を単独で成り立たせるのが難しいという現実があります。

そこで、まずは「誰でも受診する入口」となる内科が優先的に選ばれる傾向が強いのです。

つまり、地方では「差別化」よりも「**基盤医療の充実**」が優先されやすいと言えます。



インフラ・病院数の制約

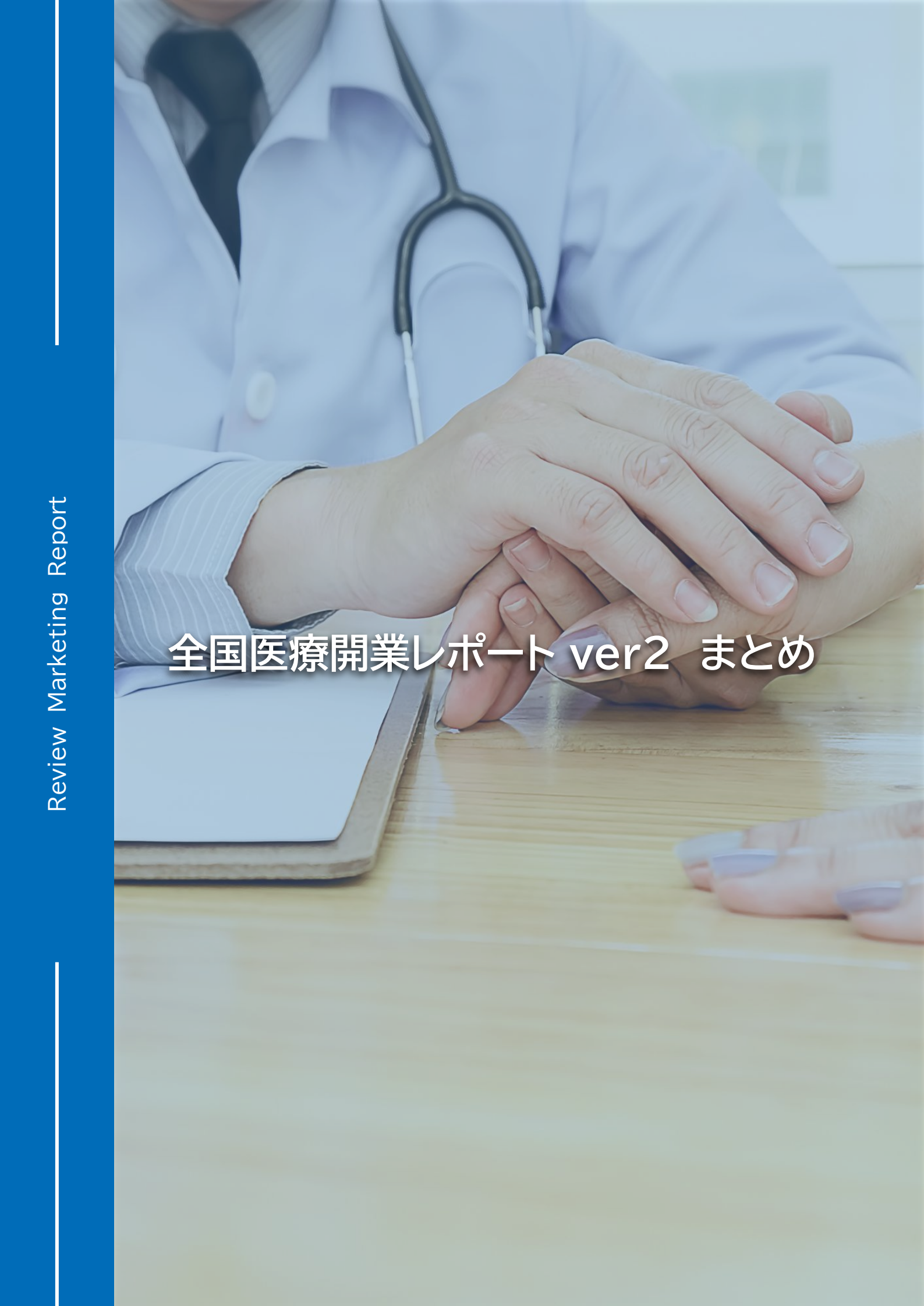
地方は都市部に比べて総合病院や専門クリニックの数が少なく、アクセスも限られているケースが多いです。

そのため、地域のクリニックに求められる役割は必然的に広くなり、内科が多岐にわたる疾患をカバーする「**万能科**」的な立ち位置を担っています。

たとえば、発熱や高血圧、糖尿病、予防接種、風邪や生活習慣病といった幅広い症状をまずは内科で受け止め、必要に応じて専門医へ紹介するという流れが地方では特に定着しています。

結果として、「内科一本」で開業しても、患者需要が切れない・安定する土壌があるため、地方では内科が開業の中心となりやすいです。

このように地方では「人口分散 × 医療インフラ不足」が組み合わさり、内科が“**地域医療の土台**”として必然的に厚みを増す構造になっていることが分かります。

A photograph of a doctor in a white lab coat with a stethoscope around their neck, holding a patient's hand. The scene is set on a wooden desk with a clipboard. The image has a soft, blue-tinted overlay.

全国医療開業レポート ver2 まとめ

医療業界の“これから”— 社会ニーズに応えるために

2025年4月～6月のデータを振り返ると、全国で1,642件の病院・診療所が新たに開業しました。そのうち4月～5月の春先の開業数は600件を超えており、年度初めのタイミングにあわせた開業集中が目立つ結果となりました。

本レポートを通じて見えてきたのは、日本の医療が直面する“**社会の変化**”と“**現場の対応力**”です。

高齢化、予防志向、メンタルケア、美容・QOLといった多層的なニーズに応えるため、医療の形は今後さらに多様化・高度化していくことが求められています。

「多様化する都市」と「基盤を支える地方」——

医療の二極化

都市部では、美容クリニックや心療内科など“**時代の流れ**”に沿った新しい診療科の開業が目立ちました。

人口密度が高く、患者のニーズも多様化しているため、“**選ばれる理由**”を明確に打ち出すことが都市での成功要因となっています。

一方で地方では、生活の基盤を支える存在として“**まず必要とされる内科**”が選ばれる傾向が強く、開業の半数近くを占めていました。

地域全体の人口規模が小さいことから診療科の分散が起きにくく、総合病院や専門クリニックの不足も相まって、内科が“**地域の入口**”として幅広い役割を担わざるを得ないのです。

人口動態や医療インフラの地域差を反映しており、今後も『**都市＝多様化**』『**地方＝基盤重視**』という開業の二極化が続いていくと考えられます。



数字を超えた価値、開業という挑戦

医療機関の新規開業には、決して小さくないリスクが伴います。

人口減少による患者数の減少、医師不足やスタッフ採用の困難、さらには医療制度や報酬改定といった制度的な変化は、経営基盤を揺るがしかねない要因です。
都市部では競合が激化し、地方では需要の偏在や人材不足といった課題が常につきまといます。

しかし、それでも開業を選ぶ医師たちがいます。

「地域に必要とされる医療を届けたい」

「自らの専門性を活かし、患者に寄り添った診療をしたい」

時に不安に揺れながらも、それを超えて「理想の医療」を実現しようとする医師たちの決意が、**医療の未来**を力強く照らしています。

その思いこそが、数字では測れない医療の価値を生み出しています。

私たちが日々安心して暮らせるのは、こうした医師たちの挑戦があるからです。

病院・診療所の灯りがともるたびに、一つの地域に“**安心の拠点**”が増え、
今この時も、人々の暮らしに温もりが広がっているのです。

このレポートが、皆さまにとって、
地域の医療が持つ可能性を改めて見つめ直すきっかけとなれば幸いです。

希望と挑戦の連鎖が、次の世代へとつながる——
より豊かな医療の未来を築いていくことを願い、このレポートをお届けいたします。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当: 安川
E-mail: yasukawa@re-view.co.jp

Re:view